

新刊展望 1982 11

〈対談〉詩人李白の世界
田中克己 VS 林富士馬



THE OBUNSHA SPACE SCIENCE

最先端の宇宙科学シリーズ

新たに12冊を加えさらに充実



目をみはる宇宙開発の成果と壮大な宇宙への旅。
宇宙を知る、宇宙を探る、宇宙を旅する

SPACE TECHNOLOGY

世界の宇宙開発

パイオニア、アポロ等の宇宙飛行黄金時代から今日のサリュート6号、シャトル計画に至るまでの宇宙征服の歴史をたどる本格宇宙開発百科。
原著：ケネス・ガトランドほか／A4変型、上製本／292頁 ●定価6,500円

THE GRAND TOUR

太陽系35の惑星と衛星

わが太陽系の世界を、宇宙科学の成果によって発見された驚異の現実をもとに豊富なイラスト・写真を駆使して解説した壮大な宇宙旅行手引書。
原著：ウィリアム・K・ハートマン、ロン・ミラー／203×252mm、上製本／192頁 ●定価4,500円

◆既刊、好評発売中◆

- ビジョンズ・オブ・ザ・ユニバース ……定価4,800円
- 銀河宇宙の神秘 ……定価15,000円
- 宇宙衛星から見た地球 ……定価5,800円
- 図解 天体の観測 ……定価3,800円
- 宇宙大戦争 ……定価2,400円
- スターライナーズ ……定価2,400円
- 宇宙遭難 ……定価2,400円

明日を見せる
科学誌



SCIENTIFIC ENTERTAINMENT MAGAZINE

●毎(前)月5日発売 ●A4判変型 ●フィクションとファクトをみごとに隔合。大胆に“新しい明日”を見せる、これがオムニです。今、好評発売中。

〒162 東京都新宿区横寺町55 旺文社

対談

詩人李白の世界

～平凡社刊『中国の名詩』（全10巻）をめぐる～

田中克己／林富士馬

(詩人)

(文芸評論家)



(田中氏)



(林氏)

李白の酒はいいお酒

田中 李白の酒の詩はすいぶん数が多いですね。その全部を通じて言えることは、彼の酒は非常にいい酒だということ。それから、酔払っている最中か、あるいは覚めてから詩が出来るんです。これは非常にいいと思います。

林 先生がお書きになっているいちばん最初の李白の酒の詩がありますね。中谷孝雄先生が陶淵明をやっているらしい。あちらは全然お酒を召し上がらないでしょう。田中先生はいくらか召し上がると聞いていたんですけれども……。

田中 このごろやと稽古したんですけど、おいしいですね、酒というのは。ぼくは陶然として機を忘る(陶然其忘機)といって、これはほかの詩人の詩ですけど、もう詩のことなんか忘れ、眠くなってしまう。だからぼくは寢酒のほうです。

林 李白の詩のうちで酒の詩をお読みになると、先生なんかいい気持ちになります。田中 はい。「一杯一杯また一杯 われ酔うて眠らんとす 聊且らく去れ 明朝意有れば琴を抱いて来れ (一杯一杯復一杯 我醉欲眠聊且去 明朝有意抱琴来)」。

明日も来いや、琴を持って来いというわけです。そういうわけで非常にいい酒でしょ。われ酔うて眠らんとす、これを眠らんと欲すと読んじやいけないんです。眠くなつたというわけです。眠りたいと訳しておかしいわね。

林 杜甫のお酒はどうなんですか。田中 杜甫も酒好きですよ。詩人で酒が嫌いなやつはぼく一人よ。あなた好きでしょう。

林 陶淵明の酒の詩は、李白にいくらか関係あるんでしょうか。

田中 李白は謝朓という人が好きで、陶淵明はあまり好きじゃなかったらしい。読んでいなかっただからかもしれないね。その謝朓という人は完全に李白に影響しているんですよ。陶淵明の酒の詩もいいでしょう。あれが好きなのはぼくが今、やっている蘇東坡ですよ。蘇東坡は非常に陶淵明が好きで、陶淵明まがいの詩を百ほど書いています。陶淵明の酒はいいですね。李白の酒もいいですよ。杜甫の酒は泣き酒ね。怒り酒かもしれない。非常に憤慨するわけだ。

林 佐藤春彦先生はお弱いんです。一杯一杯ぐらいいでほとんどお飲みになれないですね。

田中 みんなに飲ましていらしたですね。先生、懐かしいねえ……。

林 李白は奥さんは何人いたのですか。正式の一人でしょうけど。

田中 李白は正式の奥さんが四人。そのほかに、胡姬といってイラン系統の女が好きでしょう、酒場に行ってるね。

林 向こうにもどぶろくと清酒みたいなものがありますね。あれは日本のどぶろくとは違うんですか。

田中 違いますよ。

林 名前は精製しないのをどぶろくと言うんですか。田中 精製しないのは賢というんです。これは隠語で、清酒のほうは聖というんです。「聖も賢もともに飲む(賢聖既已飲)」という詩があります。どぶろくも飲むし澄んだほうの酒も飲むということだけど、澄んだほうの酒は紹興酒なんかの系統でしょう。非常においしい。あ

なとも中国酒好きでしよ。

林 ええ、好きです。民族のお酒というの料理といちばんくっついてるわけ、やっぱり中国料理は中国酒ですね。

田中 思い出しますけれども、田中元首相が日中協定で北京へ行ったでしょ。そうしたら盛んに飲まされてね。

林 テレビで見ましたけど、乾杯、乾杯といっただけです。

田中 あんなことをしたらすごいことになります。強いわ、あの酒は。

林 ソビエトへ行ってもそうだと書いていましたね。ウオツカとかを会議でゴインですって。だから、よっぽどがんばってないの大変らしいです。あの時、テレビで初めて田中首相の時の宴会を見たんですけど、なるほどあれではね。

田中 李白の酒は非常によくって、酒一斗で詩が何百編で出来るんですからね。それで玄宗皇帝に仕えたんどのね。今で言う芸術院会員になったわけです。

林 吉川幸次郎氏なども、田中先生は詩人だからといって、その翻訳をほめています。田中先生はハイネの恋愛詩集も記していらっしやる。

田中 「ハイネ恋愛詩集」は春秋に増版して数十万売れましたが、とうとう絶版になりましたよ。

中国の唐県で終戦

林 先生は、中国のほうへは、だいは行かれたんですか。

田中 ぼくは兵隊で行きました。年齢三十四歳で取られているのよ。日本から最後に行った兵隊なんです。ぼくが行っ



李白仙像

李 白の仙人像

李白の人となり魅力

護したけど、彼はもう戦争がいやになった、死にたくなつたと言っていた。ソ連に宣戦布告されたというのが非常にそいつには痛みだつたわけね。

ら、今、君が代を傍受したけど何だと言わけてです。それで「ハイ、ソ連に対する宣戦布告であります」と言った。そうしたら「おお、そうか」と言うわけ。それでよかったです。もし、ぼくが「全面降伏であります」なんて言ったら撲り殺されていたよ。

林 先生はその時、完全に聞かれていたわけですか。

田中 いやいや、ぼくもソ連に対する布告だと思つたわけよ。それでその晩ヤケ酒を飲んだ。そうしたら、ぼくと一緒に酒を飲んでいた伍長が、これが実は共產党なものだから、ソ連が日本と戦争をしたということが非常な痛みなんだね。だから、こいつは酔っ払っちゃって、オレは今から行つてくると言うんです。どこへ行くのかと思つたら、向こうが放送しているんですね。ところが、マイクが悪いから何を言っているかわからないんだ。結局「日本兵よ、天皇は全面降伏したよ。もうお前らもやめろ」とぼくらの大隊に言っているわけだけど、それが全然わからない。そいつは「うるさい」と声のする方向に向かって城壁を飛び降りて足を折っちゃった。それをぼくは看

たときは、関釜連絡船が福岡から出ていたんですよ。そして、夜陰にまぎれて釜山に行くわけですよ。あの間にアメリカの潜水艦が山ほどいるんだから……。そうしたら、日本の兵隊って船に弱いんだね。晚めしにライスカレーが出たらだれも食いに来ない。余っているから来いよというので行つたらばく一人ですよ。それでライスカレー二杯。昭和二十年の三月二十日過ぎにライスカレーを食うなんていうこと出来ますか、内地にいて。それが始まりでどんどん食欲が出てきた。釜山に着いたら、韓国の少年が夕刊を売りに来たんですよ。五種類だから五十銭だよ。それを買ったら、実は三種類なんだね。つまり、同じ種類が二枚入っていたわけ。それで何が書いてあるかといったら「硫黄島の連絡絶ゆ」とあるんだな。そして、そこから夜汽車で行つたら、秋風嶺という山があるんですが、そこを越えるときに、韓国の女の子がみんなほくの汽車を見て、兵隊さんだといって日の丸を振ってくれたんですよ。

林 熱烈歓迎を受けたわけですね。

田中 はい。今、日本に対して非常に怒っているけど、あの時は旗を振ってくれたんですよ。ところが、満州国に入ったら全然なし。中国に行つたらもっと悪い。中国へ行くのと兵隊さんというものは金儲けの対象です。ぼくは十月十日まで兵隊をやっています。

林 最後の終戦の八月は、中国のどこにおられたんですか。

田中 八月十五日には唐県ちやうけんにいたんですよ。そこは電線がないんですよ。そうしたら無電班が呼びに来た。それで行つた

林 先生は李白のどんなところに、いちばん魅力を感じられましたか。

田中 いちばん初めは李白は何民族かということね。その次は李白はどういう人かということ。酒が好きだということ。林 普通は酔うために飲むのじゃないか、あの人は本当に好きだったという感じがします。陶酔ということですね。田中 先生なんぞはお酒を着にして詩を読まれるんですよ。李白みたいな人はは珍しいですよ。今度、先生から李白のお話が聞かれるというので懐かしかったです。ほんとうに李白はいいなあと思います。このごろ、吟遊とか漂泊とかいって山頭火なんていうのがはやっていまして。スケールが全然違つておもしろくないんです。放浪なんていう感じは李白はちっともしないんで、そこがいちばん魅力ですね。悠々としていても何か甘い感じがして、ああ、こんな世界があったのかと、李白をパラパラとめくって久しぶりに感動いたしました。

田中 川柳に酒は出ませんか。

林 川柳というのは特別な世界でしょう。もちろんいろんなふうに出ているとは思いますがね。

田中 万葉集には山上憶良の酒の歌があるでしょ。

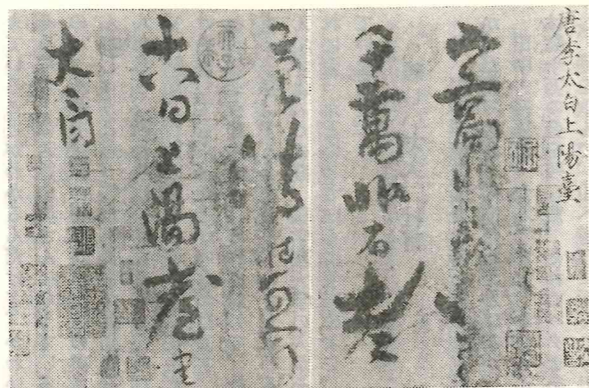
林 あれはオーソドックスで、美という意識がどこにあるでしょう。川柳はそれが全然ない世界ですからね。ですから、今度、先生の李白のこれを読んでいて、久しぶりにまた詩の原点というようにものを猛烈に感じました。李白は小さい時から詩の天分というのはあったんですか。

田中 李白は五歳のときに中国の四川省に帰ってくるんです。それで道教の勉強をするんですね。いちばん初めに勉強したのは十干十二支、丙午はどうしたとか、ああいう勉強をしたんです。今でも曆を見ると今日は何の日だとかというのがあつて、ああいうのを勉強したようですよ。そういう道教の勉強をして、それから古典の勉強もしたということなんですが、それは詩が主で、あまり難しい文章はやらなかったようですね。

しかし『史記』なんかも面白いですからね、勉強したでしょう。武田泰淳の書いた『司馬遷』でも面白いわね。あんなのは歴史と違えますよ。『古事記』『日本書紀』よりずっと面白い。

林 李白の詩はどういった経緯で認められ、世の中の多くの人に読まれるようになったんですか。

田中 それは彼が道教が好きだったからで、そのころ、玄宗の朝廷では道教が非常に信じられていたんですよ。玄宗のプリンセスなんかでも女道士になるという世の中です。楊貴妃というのは息子の嫁さんだったんです。それを噂に聞いて玄宗が好きになっちゃって、女道士にして息子と離婚させる。尼さんですから



李白の真筆と目される現存唯一の書
〔故宮博物院蔵、歴代法書選集より〕

ね。そして、離婚しているからといって連れてきて自分が結婚したわけね。玄宗という人はひどい人よ。自分の息子の嫁を取っちゃったんだからね。

林 その楊貴妃の話を大詩人がみんな歌うでしょう。李白もいい気持で歌っているけど、端々にトゲのあるようなことをちょこちょこつと言うから(笑)、それで李白もひっかかったんですよ。いくら楊貴妃をきれいに歌い上げていても、ちょこつとそういうのを端々に入れる。追い出されるのはそのせいでしょう。

田中 酒を飲む理由は「前に樽酒あり」という歌がありまして、それを見ると、元氣だせよ、人間にとつてどうせ人生ははかないんだから酒を飲まずにおられるか、この世の憂さを忘れるために、人生の醜さを忘れるために酒を飲んだと言っている。それ、わかるね。だから、不老長生術をやりながらも、どうも効き目が薄いな、どうせ死ぬんじゃないか、それなら酒を飲もうという感じ。それから、貴様、酒飲めよと人にも非常に酒を勧めますね。

政治と結びついた中国の詩人

林 李白と杜甫というと十一ぐらい年が違ふんでしょうか。杜甫のほうが後輩ですね。杜甫がとて李白のことを懐かしがるようなところがあります。

こんどのシリーズに李白のことを神仙と書かれています……。
田中 まじないをして、オレのつくった酒や薬を飲んだら永劫に死なないし、年も取らないというのがあるんだけど、それを李白は信じたわけ。ところが、だんだん年を取ってボケてきた。最後は楊

という意味。キリスト教の神さんじゃないんですよ。道教の天神がくれる天平なんです。勝宝というのは、どこかの郡から宝物が出たというんですが、人間のこさえたものを掘り出したわけで、これはみんな道教の影響です。天平神護という年号もありますけど、この神さんは日本の神さんじゃないんですよ。道教の神さんです。

林 卑俗な民間の信仰と、老子の哲学が結びつく玄宗皇帝時代の詩人の作品は、おもしろいですよ。李白の時代、戦争もたくさんあったんじゃないかと思いますが、いちばん大きいのは安祿山の戦いですか……。

田中 その時は彼も非常に奮起しましてね。玄宗の息子が安祿山に抵抗する一軍の司令官になったんですが、その書記になって檄、つまりピラを書きに行くんです。ところが、玄宗の後継ぎの肅宗というのがいて、これと兄弟ゲンカをする。だから、李白のほうは反乱軍になっちゃうわけだ。

それで李白のほうの大将はその皇太子に殺される。このころ皇太子は皇帝になり、玄宗は上皇になっていきますからね。李白は叛軍のほうに味方したというので流されてえらい所に行くわけです。今のタイ人のいるような所です。しかし、途中で大敵に会って帰ってくるんですが、もうヨボヨボになっている。

彼は非常に愛国的でもあったし、戦争に関しては、戦争で残された女たちに対しては非常に悲しむようないい詩を作っている。そのくせ自分は戦争に行きたがるようなところがあつた。それはやはり愛国心でしょうね。

子江の月を取ろうとして、はまって死んじゃうのね、酔っ払って。でも、死に方は見事ですよ。

林 神仙というのは道教でしょう。日本でいえば稲荷信仰みたいな民間信仰がありますね。あれとあの時代の老子が、ああいう哲学と結びついて玄宗皇帝が夢中になった。それで李白なんかも宮廷に迎えられたんだと思います。それでも詩の端々には楊貴妃のことを批判している。典型的な詩人のタイプでしょう。中国の詩人というのは、日本の政治と文学のようないい加減な関係じゃなく、徹底的に政治と結びついていますからね。

田中 日本も奈良朝時代に道教の影響を受けましてね。たとえば、天平勝宝という年号があるんですけど、天平というのは天の平和で天の神さんがくれたもの

中国文学における対句と対句論

広島大学教授 古田敬一著

A5判・五四〇頁 定価二、〇〇〇円

「柳は緑、花は紅」のような対照表現を対句という。内容より表現を重視する中国文学の最も代表的特色。対句専門の研究書としては嚆矢。対句の原理・種類・効果・評価等の視点から、詩・散文・駢文各ジャンルの対句を総合的に追求する詳細的確な論考。

列子研究 山口善男著 重要の研究 檀大野喜著 職官の研究 檀大野喜著 価三、〇〇〇円

楚辞研究 竹宿貞夫著 湛甘泉の研究 志賀一朗著 価三、〇〇〇円

風間書房 東京都千代田区神田神保町1-34 電話03-291-5729・振替東京1-1853

林 子供は何人ぐらいいいたんですか。

田中 最初の奥さんに二人、一男一女出来たというんです。これはどうなつたかわからない。最後の奥さんは子供なし。三番目の奥さんにも子供が出来て、これが一男一女。一男だけは後継ぎがあるんですよ。孫の代になってはじめて生きていることがわかるんだけど、かわいそうなことに百姓の奥さんになっていくのね。それでは気の毒だから士族の奥さんにしようと思って地方長官が運動するんだけど、私たはいやだと言う。それで、結局、百姓の奥さんのまま、税金だけ勘弁してもらったとかいうわけです。かわいそうなんです。それに對して、杜甫の子孫はずうと残る。いまだにいるんですよ。この間、国学院大学の人がそれに会ったといつてほくに手紙をよこしていました。

親しい友人、杜甫

林 生活環境の面では若いときは貧しかったんですか、裕福だったんですか。

田中 裕福だったんですよ。お父さんは数十万の金を残した。それでバクチをし、酒を飲んで、山へ遊びに行くわけ

すそうしているうちにお呼びがかかったんです。こいつは道教の知識があるからということだね。宮中から出されたときも、元芸術院委員で一生食べるのよ。」ちよっとオレのことを詩に書けよ。」と言って酒を飲まずでしよ。そうするとサラサラッと書くのね。それで酒代はもとより薄謝じゃなかったのよ。それで次にはかの地方長官のところへ行くわけです。

林 李白のいちばん親しい友人というところ……。

田中 杜甫がその一人ですね。道教のほうでの友達もいる。

林 阿倍仲麻呂を詠った詩がありましたね。

田中 あれも友達なんだ。林 しかし、これを読んでほんとうに久しぶりに詩を味わいました。ずいぶん長い間、詩を忘れていたと思いましたね。

田中 道教の友達で元丹丘というのがいますけど、これがいちばんの親友です。しかし、詩のほうでは杜甫ですね。元丹丘は詩がわからないんだから。

林 ほかの感じでは、李白は次々とお友達が出来ますけど、わりとずっと別れ

て、また仲良くなる。杜甫とはそういう点で性格的にすぐ違うんだけど、李白をとっても懐かしがるし、ああいうタイプだから、李白みたいな詩人の影響をものすごく受けたんじゃないかと思えますね。何かディオニソス的で、ほんとうに天性の詩人ではないですかね、李白というのは。

田中 杜甫は苦労しているね。林 李白も苦労しているのかもしれないけれど、あれは酒を飲みながらどんどん忘れちゃうんじゃないんですか。

田中 こんどのシリーズはぜひ読んでいただきたいと思いますが、同時にお酒も好きになってほしいですね。セックスはいい加減にしたほうがいい(笑)。それからこの世の流行を追うようなことはおやめになったほうがいい。山登りはしていいが、高い山に登るんじゃない、山は怖いというのを知りながら信仰を持って登ってほしいね。山があるから登るんだなんてとんでもない(笑)。山は信仰のある所、神さんのいる所、天に近いんですから。

林 ぼく自身は、李白の詩をパラパラとめくって、いままで詩が好きだっ

たけど、何かこちょこちょした詩だったなあ、詩の原点にもう一度戻りたいなあという気がしました。

『中国の名詩』全10巻

。一回・④巻「天遊の詩人 李白」110月4日刊

。A5変型判・平均二五六頁

。特別定価一、一〇〇円(第一回配本の

み・58年1月末日まで)

。定価各一、四〇〇円・全巻一時払定価一

二、〇〇〇円(昭和58年1月末日まで)

。古来日本人に親しまれ、口ずさまれた

中国の名詩一、〇〇〇余編のすべてを

収録。口語訳、原詩、読下しの三段構

えで名詩を心ゆくまで鑑賞できる中国

名詩シリーズ。

。全10巻内容①うたの初め 詩経、②

滄浪のうた 屈原、③憂愁のうた 漢

から六朝、④天遊の詩人 李白、⑤漂

泊の詩人 杜甫、⑥王都のうた 唐詩

I、⑦長江のうた 唐詩II、⑧山林の

うた 宋から清、⑨黎明のうた 魯迅

・毛沢東・周恩来、⑩花影のうた 詞

・賦 平凡社刊

幸福を知る才能

宇野千代

人の幸、不幸は本人の望みしだいである。私はほんとうのところでも、私に幸福を見つけてきた。若いも愉し、別れも愉し、挫折も又愉し、絶えざる好奇心が生んだ華麗な軌跡、人生の歡欣。

わたしのソフィア

宮城まり子

話題の映画「虹をかける子どもたち」が架けた、まり子さんとソフィアとわむの木の子とわたしの愛の交流。豊かな感性、美しいふれあいのこころがひびく、感動のエッセイ集。

定価(三〇〇円)

八五〇円

二五〇円

〒104 東京都中央区築地2-9-2 電話03(542)9671 振東1-44886